

# 「イクケン香川」子育てでカレッジ

## 子育て環境整備学科 「子育て住まいのアドバイザー」養成講座



住宅に関する仕事をされている企業の方を対象に、親子にとって居心地の良い住まいづくりを通して、子育て家庭を支援するため、子育て家庭の現状を学んだり、仕事と家庭の両立について考える機会となるよう実施

日時 ● 9月25日(火) 13:30~16:00

参加者数：25名

会場 ● サンメッセ香川 小会議室2・3 (高松市林町 2217-1)

13:30~14:40 ライフステージ別

子育て家庭のニーズとパパの役割

講師：徳倉康之

14:40~15:00 ワークショップ

15:00~16:00 香川の子育て家庭の現状とママのホンネ

講師：中橋恵美子

### 【ライフステージ別 子育て家庭のニーズとパパの役割】

NPO 法人ファザーリング・ジャパン理事 株式会社ファミリーエ代表取締役 徳倉康之

#### 現代の子育てをとりまく時代背景・子育て家庭の現状

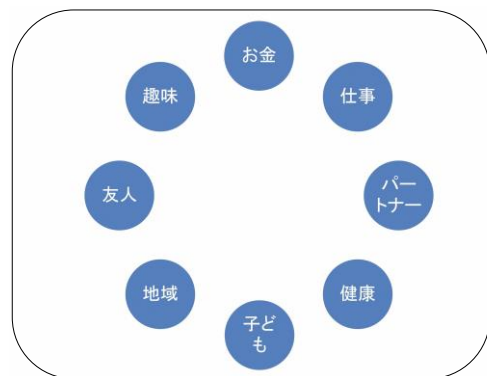
1970年代から現在にかけて、共働き世帯は約2倍に増加。女性の生涯賃金は増える傾向にあり、逆に男性の生涯賃金は減る傾向で、男女の差が縮まってきている現状である。

かつて1950年頃までは会社と家庭が近い=職住接近の状態であった。その後のバブル時代には、働けば働くほど賃金が上がっていくという状況もあり、地域や家庭から父親が離れて会社で頑張るといった構図へと変化。バブルがはじけると、働いたからといって賃金が上がるという状態は難しくなり、仕事の生産性を上げて定時に仕事を終え、家庭を大切にしながら、夫婦で共に働くという時代になってきている。東日本大震災を経験したことも、家族を支え、家族を大切にという時代の変化に影響していると思われる。



### 【ワークショップ】今と20年後の人生の優先順位を予測して記入

『子どもは地域へのパスポート』



このワークショップを通して、一般的に言えることは、年齢が上がれば上がるほど、健康と地域の優先順位が上がる傾向にあるということ。ただ、若いうちに地域とつながっておかないと、特に男性はリタイアしてから急に地域に溶け込もうとしても難しい。子どもが小さいうちに、子どもを介して地域とつながっておくという事がとても大切である。また、父親が地域にどうかかわるかを考えていくことは、地域の安全・安心にも繋がっていく。

## 働き方もライフステージごとの価値観の変化に対応を！

ライフステージの変化によって価値観も変わり、大事にしたいものも変化する。育児をしたいと思った時に、育児に積極的に関わることのできる組織であるか。一方で仕事に打ち込みたいと思っている人にとっても、公正に評価される仕組みがあるか。そういうものが、働き方改革であったり、ダイバーシティマネジメントというものである。

子育てしている人、家族の介護を抱えている人、その他制約のある人、また人生の価値観の違う人も受け入れるという多様性と、それを公正に評価する仕組みを作れる組織が、確実に成果を上げていく。またそれができる組織が増えるということは、子育てに優しい環境につながり、子育てに優しいということは高齢者にも、一般の方にも優しい社会に繋がっていくということである。

## 【香川の子育て家庭の現状とママのホンネ】

NPO 法人わははネット 中橋恵美子



### 少子化による様々な影響

かつては、子どもが多く高齢になるにつれて人口が減っていくという、人口ピラミッドを描いていた。それが、どんどん少子化となり、2、30年前にお神輿型（5～6人で1人の高齢者を支える時代）になり、現在は騎馬戦型（2～3人が1人の高齢者を支えるという時代）になってきている。20年後には、肩車型（1人が1人の高齢者を支える時代）になると言われており、少子化は私たち生産年齢人口世代への影響もとても大きいということである。

結婚をする人が減ってきていることも、少子化の原因の1つ。理由は様々ではあるが、結婚はしたいけれど出会いがないという方々のために、少子化対策の1つとして行政も出会いの機会の創出など結婚支援をする時代になっている。

また、晩婚化も進んでいる。このため、出産年齢も高くなり、育児と介護が重なってしまう「ダブルケア」という社会課題も起きている。

### 子育て三重苦

香川県は、約8割以上が核家族。また、自分の育った市区町村以外の見知らぬ土地で子育てをしている「アウェイ育児」の家庭は、全国で約7割。親になるまでに赤ちゃんの世話をしたことがなかったという方も約7割という調査結果もある。

そんな中、誰かに頼り、助けてもらいながら育児をするというよりも、清算型の育児（預かってもらったら、その日のうちにお礼をして清算をするというような状況）になってきている。人に頼ることが難しく、孤独な育児を生んでいるのが現状である。

子育て中の悩みを知っていて、声をかけてもらえるだけでも安心したり、子どもの話を聞いてくれる人が身近にいるだけでも、子育ての負担感は随分解消される。

様々な子育て支援メニューについても知識として知っておき、子育て家庭に必要なに応じて情報提供できると、子育ての孤独感、負担感の軽減にもつながると思う。

### 参加者アンケートより(一部抜粋)

- とても役に立つお話をたくさん聞くことができてよかった。
- これからの営業時などで役立てられるようにきちんと勉強したいと思う。
- 接客の際の予備知識、アドバイザーとして相談役になれる内容だった。
- 徳倉さんのマネジメントの話をもっと聞きたかった。
- 子育て住まいが求めている家の間取りなどの話があると思っていた。
- 自分の子どもの小さい頃を思い出し、赤ちゃんの頃大変だったなと思った。
- 今後多様性が求められる社会で、家づくりも変化していくと感じた。
- 聞きたい内容が多く、2時間半では聞ききれなかった。
- 10年後の近い将来もヒアリングして会話してお客様がずっと住みやすい家づくりをしていきたいと思った。